

Chrome ブラウザ クラウド管理の使用に関する ベスト プラクティス



目次

| | |
|--|----|
| Chrome ブラウザ クラウド管理を利用するためのオプション | 04 |
| 既存の Google 管理コンソールへのアクセス | |
| 独自のドメインの使用 | |
| ガイド | 06 |
| 組織部門の設定 | 08 |
| ロールベース アクセス制御の設定 | 09 |
| サードパーティの SAML SSO との統合の設定 | 10 |
| Chrome ブラウザ クラウド管理の本番環境へのロールアウト | 10 |
| コンソールをレポート専用モードに設定する | |
| 仮想マシンと物理マシンに対するサポート | 12 |
| 非永続的仮想マシン | |
| 永続的仮想マシン | |
| 物理マシンに対するサポート | |
| Chrome ブラウザ クラウド管理でのレポートの確認 | 14 |
| ポリシーの適用 | 16 |
| Chrome ブラウザ クラウド管理の API サポート | 16 |
| Chrome ブラウザ クラウド管理の問題のトラブルシューティング | 17 |
| リソース | 19 |

はじめに

Chrome ブラウザ クラウド管理へようこそ。このガイドは [Chrome ブラウザ クラウド管理導入ガイド](#) に付随するものです。

このドキュメントでは、次のプロセスについて説明します。

- Google 管理コンソールの設定
- マシンのグループ化を目的とした組織部門構造の設定
- さまざまなオペレーティング システムにおけるブラウザの登録および管理方法（既知の制限に関する説明を含む）
- 既存の GPO がある場合にポリシーがどのように機能するか
- 拡張機能などに関してデバイスでレポートを有効にする



ステップ 1

管理コンソール (admin.google.com) にアクセスできるようにする

オプション:

- 既存の管理コンソールを使用する
- [登録ページ](#)を介して新しいコンソールを作成する

ステップ 2

組織部門を設定する（詳しい手順は[こちら](#)）

ステップ 3

管理アカウントを設定する（詳しい手順は[こちら](#)）

ステップ 4

デバイスを登録する

（詳しい手順は[こちら](#)。その他の手法は[こちらにあるさまざまなデプロイツール](#)を利用）

Chrome ブラウザ クラウド管理を利用するためのオプション



はじめに[こちらのガイド](#)に沿って Chrome ブラウザ クラウド管理を設定することをおすすめします。リンク先のガイドには、最初の設定手順がすべて記載されています。Chrome ブラウザ クラウド管理自体に追加費用はかかりません。なお、管理コンソールにアクセスできるようにする方法は2つあります。

- 1 独自のドメイン（既存の Google サービスに関連付けられていない）を使用する
 - 管理アカウントが合計 10 個提供される
 - 企業のドメインに直接関連付けることができる（ドメインの所有権の証明後）
- 2 独自のドメイン（Google サービスにすでに関連付けられている）を使用する
 - すでに管理コンソールが設定されドメインの所有権が証明されている
 - 追加の費用を負担したり Google ライセンスを使用したりする必要がない
 - 許可される管理アカウントの数は関連付ける Google サービスによって異なる

可能であれば、既存の Google 管理コンソールを使用することをおすすめします。コンソールが設定済みであれば Chrome ブラウザ クラウド管理はすでに存在しています。コンソールで該当するセクションにアクセスして、利用規約に同意するだけで済みます。

既存の Google 管理コンソールにアクセスできるようにする

既存の Google 管理コンソール アカウントがあるかどうかを社内で確認してから設定するようにしてください。多くの企業が、ChromeOS や Google Workspace など、さまざまな Google サービスのアカウントを設定しています。

-  会社の特権管理者に、Chrome ブラウザ クラウド管理のあるコンソールの管理者アカウントを設定してもらう必要があります。
 - また、管理コンソールに Chrome ブラウザ クラウド管理のライセンスを追加してもらう必要もあります。具体的には、ブラウザ管理セクションに移動し、[使ってみる] ボタンをクリックして Google 管理コンソールに追加費用なしのライセンスを追加します。
-  コンソールはロールベースで管理しているため、Chrome ブラウザを管理するために必要な権限だけを特権管理者から割り当ててもらうこともできます。
 - 管理者アカウントを追加作成するには、特権管理者のアカウントが必要になります。
 - 将来必要に応じて自身のアカウントを作成できるように、チーム用の特権管理者アカウントの作成を依頼することを検討してください。
 - 特権管理者が見つからない場合（その人が退職した場合など）は、[ドメインの再利用に関する詳細情報](#)をご覧ください。

社内に既存のアカウントがあり、特権管理者でない場合は、次の手順で Chrome ブラウザ クラウド管理にアクセスできます。

- 1 まず特権管理者に、admin.google.com にログインして Chrome ブラウザ クラウド管理のライセンスを管理コンソールに追加してもらいます。具体的には、ブラウザ管理セクションに移動し、[使ってみる] ボタンをクリックして Google 管理コンソールに追加費用なしのライセンスを追加します。
- 2 特権管理者に、特権管理者権限を持つアカウントを作成して割り当ててもらいます。特権管理者が Chrome ブラウザ管理へのアクセス権だけを付与することを考えている場合は、後述の権限を管理コンソールで付与してもらうこともできます。
- 3 [アカウント] > [管理者ロール] で新しいロールの作成ボタンをクリックし、「Chrome ブラウザ管理」のような名前をつけます。
- 4 組織部門の横にあるチェックボックスをオンにして、次の権限を付与します。
 - 読み取り、作成、更新、削除
- 5 [Chrome 管理] で、[設定] のチェックボックスをオンにして Chrome 管理の権限をすべて付与します。

注: この管理者アカウントの権限をさらに制限する場合は、特権管理者が Chrome ブラウザ管理専用の組織部門を作成してカスタムロールを割り当ててください。手順は次のとおりです。

- 1 管理コンソールで [ディレクトリ] > [ユーザー] に移動し、Chrome ブラウザ管理ロールを割り当てるユーザー アカウントを選択します。
- 2 下にスクロールし、[管理者ロールと権限] セクションをクリックします。
- 3 前述のステップで作成した Chrome ブラウザ管理カスタムロールを選択し、ボタンをクリックしてユーザーに割り当てます。
- 4 割り当てたら、「すべての組織部門」と書かれたボタンの鉛筆アイコンをクリックし、管理権限を付与する組織部門を選択します。



- 管理者がログインしても、アクセス権を付与した組織部門以外は表示されません。
- しかし、Chrome を管理し、割り当てられた組織部門に新しい組織部門を作成するためのすべての権限が付与されます。
- 監査を目的として、コンソールで行われた変更を確認することもできます。[管理者の監査ログ](#)をご覧ください。



独自のドメインの使用

自社のドメインを使用する予定であって、現在 Google サービスを利用していない場合は、[こちらのリンク](#)から登録すると、Google が追加費用なしで管理コンソールを提供します。

- 管理コンソールの初回起動時、最初の管理者はコンソールの全権限を持つ特権管理者になります。
- 他のユーザーを招待して管理者にすることもできますが（特権管理者も可能）、ドメインの所有権を証明するまでは、そのユーザーのアカウントを作成することはできません。詳しくは[ドメインの所有権の証明に関するページ](#)をご覧ください。
- ドメインの所有権を証明し、カスタムロールを作成して、アクセス権を最小限の権限に制限してユーザー アカウントを作成できるようにすることを強くおすすめします。
- 詳しくは[メールによる確認済みのアカウントとドメインの所有権証明済みのアカウントについてのページ](#)をご覧ください。




ガイド

Chrome ブラウザ クラウド管理には、このガイドの多くのセクションに対応したわかりやすいセクションがあり（[\[デバイス\]](#) > [\[Chrome\]](#) > [\[ガイド\]](#)）、コンソールの関連セクションに直接リンクされています。最初に必要となる手順がすべて記載されているため、コンソールのこのガイドを使用することを強くおすすめします。

Chrome ブラウザ クラウド管理については以下のセクションをご覧ください。

 **ガイド**

Chrome ブラウザと ChromeOS デバイスの管理を始めましょう

 **ChromeOS デバイスを設定する**

組織の構成、ChromeOS デバイスの設定、ChromeOS デバイスの設定、デバイスでのユーザー エクスペリエンスの管理、ユーザー設定（ポリシーとも呼ばれます）を行うには、これらの手順で操作してください。

- 1 組織構造を設定する ▼
- 2 ユーザーを追加する ▼
- 3 Wi-Fi ネットワークを追加する ▼
- 4 ChromeOS デバイスを登録する ▼
- 5 デバイス設定を構成する ▼
- 6 ユーザー設定を構成する ▼
- 7 アプリと拡張機能を構成する ▼

 **Chrome ブラウザを設定する**

次に説明する手順で組織を構成し、Windows、Mac、Linux、iOS および Android デバイスに管理対象 Chrome ブラウザをデプロイします。

- 1 ドメインの所有権を証明する ▼
- 2 組織構造を設定する ▼
- 3 ブラウザを登録する ▼
- 4 Chrome ブラウザのレポートを有効にする ▼
- 5 レポートを表示する ▼
- 6 ブラウザ設定を構成する ▼
- 7 アプリと拡張機能を構成する ▼

組織部門の設定

Google 管理コンソールにアクセスできるようになったら、次はデバイスを管理する組織部門を設定します。

- これが、登録されているさまざまなデバイスを分ける「バケット」となるため、そうしたマシンにのみ詳細なポリシーを設定できます。
- 親子関係の構造で設定されるため、上位の組織部門に適用した設定は下位の組織部門にも適用されます。
 - なお、上位の組織部門に適用したポリシー設定を下位の組織部門でオーバーライドすることもできます。余計な手間を避けるために、最上位の組織部門でのみクラウド レポート ポリシーを有効にすることをおすすめします。

組織部門の構造を複雑にする前に、現在どのように Chrome ブラウザ ポリシーを適用しているのかをよく考えてください。ほとんどのマシンに同じブラウザ ポリシーが適用されていますか。

- その場合、本番用とテスト用にそれぞれ組織部門を用意することをおすすめします。通常とは異なるポリシーを必要とするマシン群でさらに必要となった場合、いつでもその時点で新しい組織部門を作成できます。
- 組織部門の管理について詳しくは、[こちらをご覧ください](#)。

既存の Workspace または ChromeOS ユーザーの場合、適用されるポリシーが競合しないように、組織部門構造を別々にすることをおすすめします。

- そうすることで、元々ユーザー ポリシーを意図していたポリシーが、その組織部門に新しく登録されたブラウザに誤って適用されることを防ぎます。



ロールベース アクセス制御の設定

組織部門を設定したら、次は管理者アカウントを設定します。

- 管理者アカウントを設定することで、さまざまな管理者に必要なアクセス権を委任できます。
- Chrome ブラウザ クラウド管理または特定の組織部門のみへのアクセス権を持つ管理者アカウントを作成することも、読み取り専用のアクセス権のみを割り当てることもできます。
 - さまざまな管理者アカウントの設定について詳しくは、[こちら](#)をご覧ください。

Chrome ブラウザ クラウド管理ロールはカスタムロールです。作成するには次のようにする必要があります。

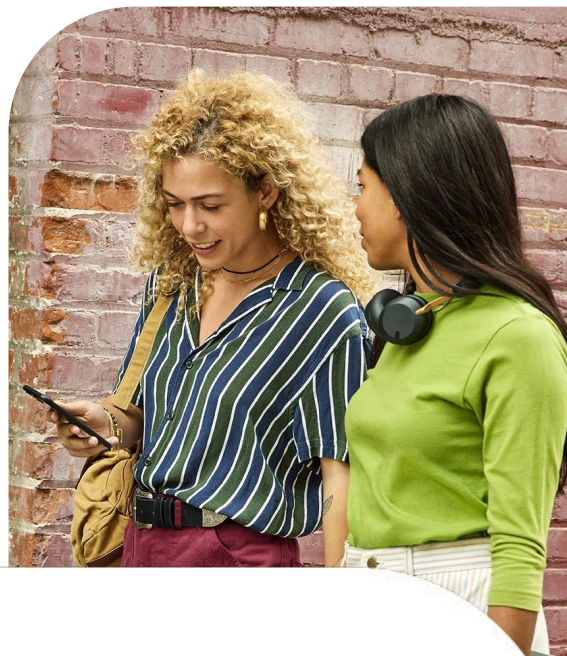
1. [アカウント] > [管理者] のロールに移動し、[新しいロールを作成] リンクをクリックします。
2. カスタムロールに「Chrome ブラウザ クラウド管理」のような名前をつけます。
3. 組織部門のチェックボックスをオンにして全権限（読み取り、作成、更新、削除）を付与します。
 - 読み取り権限を付与するだけでも構いませんが、その場合、ブラウザ管理者の管理機能が制限されます。
4. [Chrome 管理] で、[設定] の横にあるチェックボックスをオンにして、Chrome ブラウザ クラウド管理のすべての機能の全権限を付与します。

- このセクションにはレポート表示オプションがあります。ステップ 3 で付与する組織部門の読み取り専用権限と組み合わせて読み取り専用管理者ロールにすることができます。
 - ポリシーの設定ではなくレポートの表示だけが必要な管理者にとって便利です。

5. [続行] ボタンをクリックし、[ロールの作成] ボタンをクリックして終了します。
6. 管理コンソールで [ディレクトリ][ユーザー] からユーザーを選択し、[管理者ロールと権限] まで下にスクロールして、目的のユーザー アカウントにロールを割り当てます。
7. 前述のステップで作成したロールを割り当てます。
 - このロールの範囲を制限する場合は、[ロールの範囲] 列の横にある鉛筆アイコンを選択し、アクセス権を特定の組織部門に制限します。
 - こうすることで、アクセス権を付与した組織部門に関し、上記で割り当てられた権限だけが管理者に付与されます。
 - 共有環境において、他の Google サービスに関連付けられている可能性のある他の組織部門に最低限の権限を付与する方法として適しています。

サードパーティの SAML SSO との統合の設定

Google 管理コンソールにシングル サインオンを設定できます。詳しくは[こちら](#)をご覧ください。なお、特権管理者ユーザーは、SAML に対応していない唯一のアカウントです。



Chrome ブラウザ クラウド管理の本番環境へのロールアウト

ブラウザの登録について詳しくは、[こちら](#)をご覧ください。コンソールでデバイスを登録するための手順がすべて記載されています。

Windows、Mac、Linux での手順や、トークンのデプロイに使用できるさまざまな方法とツールが含まれています。

- Jamf や Intune など、[他のさまざまなツールを介した登録トークンのデプロイに関するページ](#)をご覧ください。



コンソールをレポート専用モードに設定する

お客様の多くは、レポート専用モードから段階的なアプローチでコンソールへの登録をロールアウトします。Chrome ブラウザ クラウド管理には Chrome のバージョンをレポートする機能があります。拡張機能がインストールされている場所や、ユーザーが開いているウェブサイトのアクセス権、ブラウジングに利用しているデバイスなど、拡張機能に関する詳細情報も提供されます。

この手法の価値は、現在の管理手法を変更せずにコンソールの豊富なレポート機能を活用できる点にあります。ポリシーをいくつか設定するだけで、マシンからコンソールにレポートできるようになります。

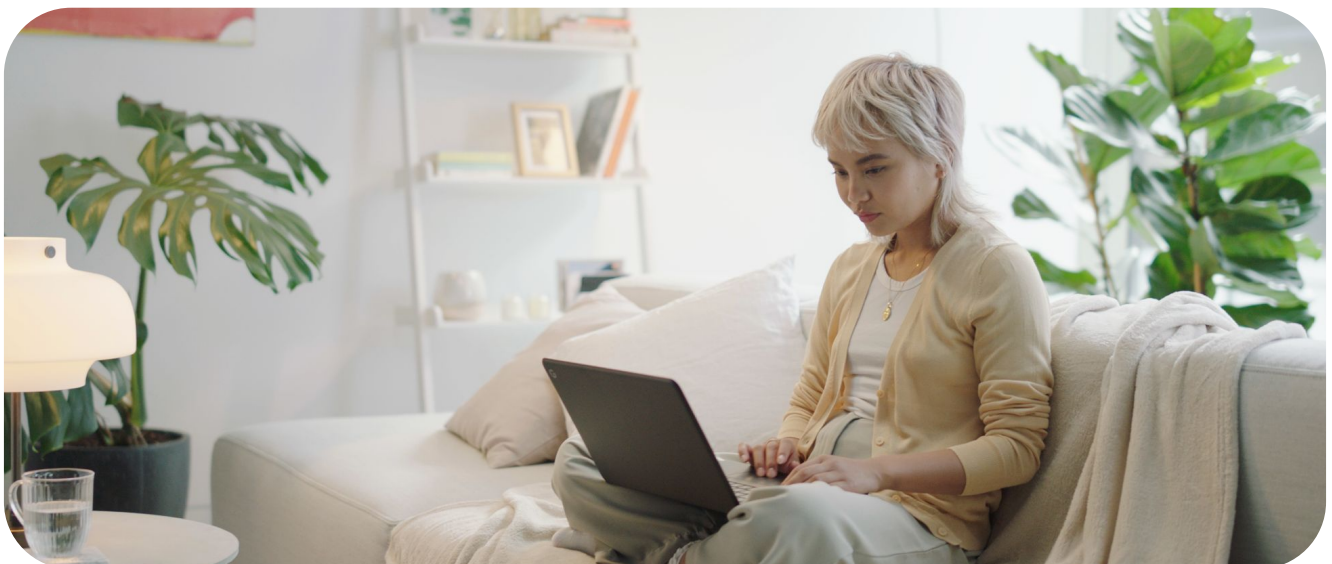
Chrome の既存のポリシーは影響を受けません。このように、クラウドですべてのポリシーを管理するか、コンソールをレポートツールとして使用するか、両方を組み合わせるかを判断しながら、レポートを活用できます。

手順

- 1 [こちらの方法](#)でクラウド レポートを有効にします。
- 2 組織部門を作成し、設定します。
 - ブラウザ ポリシーがフラットである（ほとんどのデバイスに同じブラウザ ポリシーが適用される）場合、構造を複雑にしすぎる必要はありません。
 - ほとんどの環境で、組織部門は通常 1 つか 2 つで十分です（テスト用と本番用に 1 つずつ）。
- 3 ブラウザを登録する組織部門から登録トークンを生成します。
- 4 本番環境のすべてのマシンにトークンをデプロイします。また、現在の管理方法から Chrome 関連のものをすべてクラウドで設定するように移行するかどうかを決定するまで、Chrome のバージョンとインストール済みの拡張機能のレポートツールとしてコンソールを使用します。

登録プロセスでの注意点

- コンソールからポリシーを適用するために、Chrome を再起動または起動する必要があります。
 - 登録済みのブラウザがコンソールに表示されるまで、最長で 24 時間ほどかかる場合があります。
- レジストリの登録トークンを直接変更しても、組織部門間でブラウザが移行されるわけではありません。変更を有効にするには、ブラウザをコンソールで直接移行するか、API 経由で移行する必要があります。
- 管理コンソールの [その他の設定] セクションにあるデバイス トークン管理ポリシーを介して、管理コンソールからブラウザを削除するときにデバイス トークンを無効にするか、削除することができます。
- デフォルトの「トークンを無効にする」から「トークンを削除する」に変更することをおすすめします。登録トークンを残すことができ、デバイスが誤って削除された場合、次の Chrome 起動時に再登録されます。



仮想マシンと物理マシンに対するサポート

非永続的仮想マシン

現在のところ、管理コンソールは非永続的 VM をサポートしていません。非永続的 VM を登録することはできますが、マシンが頻繁に再作成されるため、コンソールに複数のエントリが生じ、結果的にレポートが正確でなくなります。これは、マシン GUID によってマシンが一意的のものであるとされ、このマシン GUID がマシンが再作成されるたびに変更されるからです。

永続的仮想マシン

各マシンに一意的 SID (マシン GUID) がある場合、コンソールは永続的 VM をサポートします。この ID は通常、イメージ作成プロセス中にマシン上で [sysprep](#) を実行することによって生成されます。すべてのマシンで同じマシン GUID を使用するシステム (Citrix など) を利用している場合は、スクリプト ([RunOnce スクリプト](#)など) を実行してマシン GUID を変更する必要があります。このようにすることで、各マシンが別々のマシンとして表示されます。



ワークフローの例 (Windows)

- 1 Chrome を終了します。
- 2 次の場所にあるデバイス トークンを削除します。
 - HKLM\Software\Google\Chrome\Enrollment 文字列値名: dmtoken
 - デバイスを新しい組織部門に移動する場合以外は、登録トークンを残しておくことができます。
- 3 マシン GUID を削除すると、キーが再び追加されるときに新しい一意のマシン GUID が生成されます。
 - 通常、キーは次の場所にあります。
HKLM\Software\Microsoft\Cryptography\MachineGuid
- 4 Chrome を再起動します。
- 5 Chrome が既存の登録トークン (プッシュした場合は新しい登録トークン) を読み込み、新しい DMtoke をプッシュダウンします。

物理マシンに対するサポート

コンソールは物理マシンを完全にサポートしていません。ただし、デバイスの一意性は一意の SID (マシン GUID) に関連しているため、マシンのイメージが再作成されるか GUID が変更されると、コンソール内で新しいマシンとして登録されます。

マシンのイメージを再作成する場合は、重複して認識されないようにするために、コンソールからイメージを削除した後、新しいイメージで再登録することをおすすめします。無効なマシンがコンソールに残らないようにするもう一つの方法は、管理対象デバイス

ビューの [前回のアクティビティ] 列でフィルタ機能を使用するか、「フィルタを追加、または検索」ボタンをクリックして [前回のアクティビティ] を選択することです。

マシンを無効にした後コンソールに引き続き表示する期間 (90 日間、1 年間など) を決定し、コンソールからマシンを削除することを検討してください。API を使用して一定期間経過後にマシンを削除することもできます。詳しくは [API サポートのセクション](#) をご覧ください。

The screenshot shows the Google Admin console interface. At the top, there is a search bar with the text 'ユーザー、グループ、設定を検索'. Below the search bar, the breadcrumb navigation reads 'デバイス > Chrome > 管理対象ブラウザ'. A dropdown menu is open, showing '308 個の管理対象ブラウザ'. On the left, there is a sidebar with 'すべての組織部門を含める' checked and a tree view of organizational units: 'グローバル組織', 'APAC', 'Dev', 'EMEA', '北米', and 'UX'. The main content area displays a table of managed devices. A filter dropdown is open over the '前回のアクティビティ' column, showing options for '開始日', '終了日', and '適用'. The table has columns for '組織部門', '前回のアクティビティ', 'ブラウザのバージョン', '拡張機能の数', and 'p の数'. The data rows are as follows:

| 組織部門 | 前回のアクティビティ ↓ | ブラウザのバージョン | 拡張機能の数 | p の数 |
|-------------|-------------------------------|---------------------------------------|--------|------|
| a | July 13, 2020, 8:21 AM | 83.0.4103.97 | 11 | 29 |
| jo | Jul 13, 2020, 6:59 AM | 83.0.4103.116 85.0.4174.0 (Canary) | 13 | 28 |
| Cross | Jun 10, 2020, 8:51 PM | 83.0.4103.97 | 0 | 21 |
| | May 1, 2020, 1:34 PM | 81.0.4044.122 | 44 | 18 |
| CHROME1-W10 | 新宿 Jun 6, 2019, 12:24 PM | 74.0.3729.169 | 12 | 10 |
| FENSTER-10 | ベルリン Mar 26, 2019, 3:53 PM | 73.0.3683.86 | 8 | 7 |

Chrome ブラウザ クラウド管理でのレポートの確認

登録したデバイスがコンソール内に表示されると、デバイスから届くデータを確認できるようになります。

ポリシー（特に拡張機能関連のポリシー）の適用を開始する前に、現状を確認することをおすすめします。

- コンソールでデータを確認するには、[クラウドレポート機能を有効にする](#)必要があります。

- また、デフォルトの 24 時間より頻繁にレポートが表示されるように、管理対象ブラウザのレポート アップロード頻度を最小 3 時間に設定することをおすすめします。

[管理対象ブラウザ] セクションで、登録したデバイスのいずれかを選択し、[適用済みのブラウザ ポリシー] セクションをブラウジングすると、すでに有効になっているポリシーを確認できます。

| 適用済みのブラウザ ポリシー | | | |
|------------------------------------|---------------|--------|--------------------------------------|
| マシンポリシー | | | |
| 名前 ↑ | ソース | ステータス | 値 |
| BrowserSignin | クラウド マシン ポリシー | ✔ 適用済み | 1 |
| BrowserSwitcherChromePath | クラウド マシン ポリシー | ✔ 適用済み | |
| BrowserSwitcherDelay | クラウド マシン ポリシー | ✔ 適用済み | 3000 |
| BrowserSwitcherEnabled | クラウド マシン ポリシー | ✔ 適用済み | true |
| BrowserSwitcherExternalSitelistUrl | クラウド マシン ポリシー | ✔ 適用済み | |
| BrowserSwitcherUrlList | クラウド マシン ポリシー | ✔ 適用済み | 値を表示 |
| BrowserSwitcherUselessitelist | クラウド マシン ポリシー | ✔ 適用済み | false |
| CloudExtensionRequestEnabled | クラウド マシン ポリシー | ✔ 適用済み | true |
| CloudManagementEnrollmentToken | ローカル マシン ポリシー | ✔ 適用済み | 5a3f21ed-3f4b-4c7e-ba38-de5cebfe8efc |
| CloudReportingEnabled | クラウド マシン ポリシー | ✔ 適用済み | true |

1 ページあたりの行数: 10 ▾

1 / 3 ページ < >

そのマシンにすでにインストールされている拡張機能は、[アプリと拡張機能] セクションで確認できます。

インストールされているアプリと拡張機能

| 名前 | ステータス | バージョン | インストールのタイプ | ブラウザのバージョンとチャンネル | マニフェストバージョン | プロファイル |
|--------------------------------|-------|-----------------|------------|-------------------------|-------------|----------|
| Google オフラインドキュメント | 有効 | 1.501 | 標準 | 108.0.5359.100 (Stable) | 2 | Person 1 |
| Loom - スクリーンレコーダー & スクリーンキャプチャ | 有効 | 5.3.93 | 管理者 | 108.0.5359.100 (Stable) | 2 | Person 1 |
| Kiosk | 有効 | 9.3.0 | 管理者 | 108.0.5359.100 (Stable) | 2 | Person 1 |
| Meow, The Cat Pet | 有効 | 1.11.9 [1.12.2] | 管理者 | 108.0.5359.100 (Stable) | 3 | Person 1 |
| Telepathy | 有効 | 1 | 管理者 | 108.0.5359.100 (Stable) | 2 | Person 1 |
| Chrome リモート デスクトップ | 有効 | 1.5 [2.1] | 管理者 | 108.0.5359.100 (Stable) | 2 | Person 1 |
| Roblox+ | 有効 | 2.4.34 | 管理者 | 108.0.5359.100 (Stable) | 2 | Person 1 |
| Kiosk | 有効 | 9.3.0 | 管理者 | 98.0.4729.0 (Beta) | 報告なし | Person 1 |
| Telepathy | 有効 | 1 | 管理者 | 98.0.4729.0 (Beta) | 報告なし | Person 1 |
| Chrome リモート デスクトップ | 有効 | 1.5 [2.1] | 管理者 | 98.0.4729.0 (Beta) | 報告なし | Person 1 |

インストールされている拡張機能をすべて確認するには、右側にある [アプリと拡張機能の使用状況レポート] のリンクをクリックします。

Chrome アプリと拡張機能の使用状況レポート

65 個の Chrome アプリと拡張機能

| アプリ名 | アプリの種類 | インストールのタイプ | インストール数 ↓ | 権限 | マニフェストのバージョン |
|-----------------------|-------------|------------|-----------|----|--------------|
| Google オフラインドキュメント | Chrome 拡張機能 | サイドロード | 13 | 5 | 2 ⚠️ |
| スライド | Chrome アプリ | 標準 | 6 | 0 | 報告なし |
| スプレッドシート | Chrome アプリ | 標準 | 6 | 0 | 報告なし |
| ドキュメント | Chrome アプリ | 標準 | 6 | 0 | 報告なし |
| Tabby Cat | Chrome 拡張機能 | 複数 | 4 | 2 | 2 ⚠️ |
| Endpoint Verification | Chrome 拡張機能 | 複数 | 4 | 10 | 2 ⚠️ |
| Google 翻訳 | Chrome 拡張機能 | 複数 | 4 | 3 | 2 ⚠️ |
| Meow, The Cat Pet | Chrome 拡張機能 | 複数 | 3 | 4 | 3 |
| Kiosk | Chrome アプリ | 管理者 | 3 | 15 | 2 |
| Chrome 拡張機能ソースビュー | Chrome 拡張機能 | 管理者 | 3 | 8 | 2 ⚠️ |

このビューには、登録されているブラウザに存在するすべての拡張機能が表示されます。

[エクスポート] ボタンをクリックすると、このリストを CSV ファイルにエクスポートできます。

拡張機能の全リストと詳細を確認するには、**Extension Takeout API** を使用することをおすすめします。

[設定方法の説明](#)と[解説動画](#)をご覧ください。

ポリシーの適用

コンソールでデバイスのレポートを確認できるようになると、グループポリシーで現在適用しているすべてのポリシーが、クラウドからプッシュされたすべてのポリシーと連携して機能するようになります。ローカルポリシーとクラウドポリシーが競合する場合、デフォルトではローカルポリシーが優先されます。

- この機能をオーバーライドする場合、管理コンソールにポリシーの優先度というポリシーがあれば、競合した場合の処理を変更できます。
- 複数のソース（管理コンソールとローカルマシンポリシー）からポリシーを結合する場合は、ポリシーの統合リストのポリシーを使用すると結合できます。このポリシーに「*」を入力すると、サポートされているすべてのポリシーが自動的に統合されます。
- ポリシーの優先度とポリシーの統合リストについて詳しくは、[こちら](#)をご覧ください。
- コンソールでポリシーを設定すると、準リアルタイムでマシンに適用されます。
 - デフォルトでは、レポートは 24 時間ごとにコンソールに表示されます。管理対象ブラウザのレポート アップロード頻度のポリシーで、「3 時間ごと」に変更できます。

Chrome ブラウザ クラウド管理の API サポート

コンソールのほぼすべての設定に API サポートがあります。大規模な管理（マシンの移行や一括変更など）では、管理者がコンソールで作業しやすくなるように API を設定することをおすすめします。

- Chrome ブラウザ クラウド管理で API を設定する方法については、[こちらのガイド](#)をご覧ください。
- Chrome Enterprise には [GitHub リポジトリ](#) があり、大量のスクリプトや、[CBCM-CSharp](#) という C# フレームワークが用意されています。自動化と統合を通じて複雑なユースケースを把握、作成、解決するために使用できます。
- ブラウザの移行、無効なブラウザの削除、情報の取得などができる拡張の例があります。
- また、[ブラウザの復帰やアップデートの適用](#)を行う便利な Powershell スクリプトや、[Chrome ブラウザ クラウド管理の登録関連スクリプト](#)もあります。

Chrome ブラウザ クラウド管理の問題のトラブルシューティング

管理コンソールにマシンは表示されているが、情報（拡張機能やバージョンなど）が記載されていない。

- 考えられる解決策: デバイスが登録されている組織部門で[クラウド レポート](#)が有効になっていることを確認します。

マシンにトークンをプッシュしても大部分がコンソールに表示されない。

- 考えられる解決策 1: コンソールに登録するために、Chrome を再起動または起動する必要があります。通常これは徐々に行われますが、速くする場合は[こちらのスクリプト](#)を使用して登録トークンを追加し、システム コンテキストでブラウザを起動して（ユーザーに対してウィンドウは表示されません）、登録が完了するまで 15 秒間待ってから Chrome を閉じます。
- 考えられる解決策 2: 登録を行うには、マシンに Google アップデートが存在している必要があります。自動更新が有効になっている必要はありません。マシンに Google アップデートが存在することと、その機能に必要な URL がブロックされていないことを確認します。URL のリストについては[こちら](#)をご覧ください。とりわけ以下の URL が最もよく使用されます。

<https://m.google.com/device-management/data/api>

- 考えられる解決策 3: コンソールは、Windows ではマシン GUID でマシンを識別し、Mac ではシリアル番号でマシンを識別します。Windows イメージで sys-prep を使用せず、マシン GUID が同じである場合、同じマシン GUID でマシンが登録されると、コンソールにすでに存在しているものと置き換わります。

この問題を防ぐためにマシンのマシン GUID を変更する方法については、このガイドの[永続的 VM に対するサポート](#)に関するセクションをご覧ください。

コンソールで設定したポリシーがマシンに適用されたが、管理対象ブラウザの管理対象ブラウザ セクションでデバイスビューに表示されない。

- 考えられる解決策: デフォルトでは、コンソールで設定したポリシーはすぐにマシンに適用されますが、コンソールにレポートが戻されるのは 24 時間ごとです（ポリシーで 3 時間ごとに減らすこともできます）。



コンソールの管理対象ブラウザ セクションに、同じマシン名のインスタンスが複数表示されている。

- 考えられる解決策: コンソールは非永続的 VM をサポートしていません。コンソールに登録すると管理対象ブラウザ セクションに表示されますが、再作成されると新しいマシン GUID が割り当てられ、マシン名が同じであっても重複したエントリとして表示されます。

入れ替えやイメージの再適用のために無効になっているマシンがたくさんある。

- 考えられる解決策: 管理対象デバイスビューの [前回のアクティビティ] 列でフィルタ機能を使用するか、「フィルタを追加、または検索」ボタンをクリックして、[前回のアクティビティ] を選択し、削除します。
 - あるいは、API を設定し、[無効なブラウザの削除](#) に関し CBCM-Csharp セクションを参照して自動化することもできます。

リソース



[Chrome ブラウザ クラウド管理の設定](#)



[Chrome ブラウザ クラウド管理導入ガイド](#)



[Chrome ブラウザ ポリシーリスト](#)



[Chrome アップデートの管理方法](#)



[社内での拡張機能の管理ガイド](#)



[シャドー IT からマネージド Chrome ブラウザへの移行](#)